



## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月31日

上場会社名 綿半ホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3199 URL http://www.watahan.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野原 勇  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 有賀 博 TEL 03-3341-2766  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	58,846	19.8	934	2.8	1,013	3.5	551	△16.6
2019年3月期第2四半期	49,138	△0.5	909	3.3	979	4.8	661	11.9

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 516百万円 (△19.9%) 2019年3月期第2四半期 644百万円 (△6.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	55.88	—
2019年3月期第2四半期	67.07	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	60,580	14,918	24.6	1,509.60
2019年3月期	59,364	14,677	24.7	1,488.41

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 14,918百万円 2019年3月期 14,677百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	33.00	33.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	34.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	114,245	7.3	2,673	13.0	2,811	12.2	1,640	1.7	166.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）一、除外 一社（社名）一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	9,882,397株	2019年3月期	9,861,500株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	99株	2019年3月期	48株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	9,867,462株	2019年3月期2Q	9,861,452株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、2019年11月15日（金）に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、開催日までに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が続くなど、穏やかな回復基調で推移いたしました。一方、米国の通商問題の動向とともに中国経済の減速や海外の政治経済の不確実性が懸念されるなど、景気の先行きについては不透明な状況が続いております。

綿半グループが関係する事業環境のうち、小売流通市場では、消費者の将来不安を背景とした節約志向が依然として根強く、業種・業態を超えた販売競争が激化する中で、人件費や物流コストの上昇、消費税率引上げによる消費者マインドの冷え込みが懸念されるなど、厳しい事業環境が続いております。

また、建設市場では、公共投資、民間投資ともに建設需要は概ね底堅く、受注環境は総じて良好に推移しましたが、人件費や建設資材の高騰等を背景に建設コストが上昇するなど、先行き不透明な事業環境となっております。

一方、貿易事業の主力事業である医薬品市場では、政府が薬価改定において大幅な薬価引下げを行うなど、市場全体を抑制する施策を推進しており、厳しい事業環境が続いております。

このような状況下におきまして、綿半グループでは、力を合わせ、分かち合い、響き合う「合才の精神」を経営理念に掲げ、持株会社である当社を中核として、デジタル化の推進や働き方変革等による収益力の向上に努め、グループ会社が顧客・マーケットに適合した事業展開を積極的に推進してまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は588億46百万円（前年同四半期比19.8%増）、営業利益は9億34百万円（同2.8%増）、経常利益は10億13百万円（同3.5%増）となりました。また、前期に事業用資産の売却に伴い法人税等が減少したこと等が影響し、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億51百万円（同16.6%減）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

## (小売事業)

小売事業では、EDLP（エブリデー・ロー・プライス）戦略のさらなる推進を図るため、前期からの継続施策であるチラシ削減に取組むとともに、お客さまへの新たな情報発信のツールとしてSNSを活用するなど、一段と踏込んだEDLC（エブリデー・ロー・コスト）戦略を展開いたしました。

また、リアル店舗の存在価値を向上させる施策として、地域の食材・食品の強化を図るため「地場産直コーナー」の拡大に取組んだ、特色のある地域に根ざした店舗づくりを推進してまいりました。

一方、グループの新体制として、2019年8月に株式会社サイエンスホームを連結子会社化いたしました。同社は、戸建木造住宅「真壁づくりの家」のフランチャイズ事業を展開し、住宅資材を全国各地の加盟店に供給しております。前期にグループ入りした株式会社アベルネットのインターネット通販の活用や、綿半グループの仕入調達力を活かすことにより、さらなるグループ企業価値向上を図っております。

当第2四半期連結累計期間における業績は、新たに3社を連結子会社化したことや消費税増税前の駆け込み需要、チラシの削減等が寄与し、売上高は394億38百万円（同24.4%増）、セグメント利益は8億77百万円（同34.2%増）となりました。

## (建設事業)

建設事業では、下請型の工事業から提案型のメーカー化へ向けて、岐阜県に設置している技術センターを中心に、ドローンを活用した屋根診断技術の開発など、既存事業に新しい付加価値を見出すべく独自の技術開発を継続し、提案力の向上に努めてまいりました。

一方、前期に設備投資をした自動溶接ロボットは導入段階であり、本格的な稼働に向けて準備を進めるなど、将来の人手不足に備える施策も積極的に推進いたしました。

当第2四半期連結累計期間における業績は、立体駐車場の受注・工事ともに順調に進捗した結果、売上高は164億45百万円（同8.1%増）となりました。一方、利益面では、鋼材価格の高騰や採算性の低い物件の増加に加え、自動溶接ロボットとCAD図面の連携に不備が生じたことにより、セグメント利益は60百万円（同87.7%減）となりました。

## （貿易事業）

貿易事業では、「取扱原薬数を倍にする体制整備」「自然派・オーガニック商品の拡販」「海外仕入先の拡大」を重点施策として、インドやメキシコの原料調達拠点の拡充を図るなど、新原料の市場への投入準備を積極的に推進するとともに、原薬製造の安定化・高品質化に取組み、収益確保に努めてまいりました。

当第2四半期連結累計期間における業績は、一部利益率の高い商品の販売が前倒しとなり、売上高は28億2100万円（同34.4%増）、セグメント利益は5億2700万円（同99.7%増）となりました。

## （その他）

「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。売上高は1億4200万円（同10.0%増）、セグメント利益は6600万円（同69.8%増）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ、12億1500万円増加し、605億8000万円（前期末比2.0%増）となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ1億6200万円増加し、326億8600万円（同0.5%増）となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金が7億9300万円増加、仕掛金が1億2400万円増加した一方で、現金及び預金が3億7000万円減少、商品及び製品が3億3900万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ10億5300万円増加し、278億9300万円（同3.9%増）となりました。主な要因は、のれんが6億1500万円増加、投資その他の資産のその他が3億1000万円増加したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の負債の合計は、前連結会計年度末に比べ9億7500万円増加し、456億6100万円（同2.2%増）となりました。主な要因は、短期借入金が74億円増加、未払法人税等が2億1300万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が39億3800万円減少、長期借入金が35億2700万円減少したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の純資産の合計は、前連結会計年度末に比べ2億4000万円増加し、149億1800万円（同1.6%増）となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益により5億5100万円増加した一方、剰余金の配当により3億2500万円減少したこと等によるものであります。

これらの結果、自己資本比率は24.6%（前連結会計年度末は24.7%）となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は27億3300万円となり、前連結会計年度末に比べ3億7700万円減少いたしました。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の営業活動の結果使用した資金は、22億4900万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益9億7300万円、売上債権の増加6億9100万円、及び仕入債務の減少41億2400万円があったこと等によるものであります。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の投資活動の結果使用した資金は、15億5700万円となりました。これは主に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出9億2900万円、及び固定資産の取得による支出5億8900万円があったこと等によるものであります。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の財務活動の結果獲得した資金は、34億円3000万円となりました。これは主に短期借入金の増加48億円、及び長期借入金の返済による支出10億7000万円があったこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。なお、2019年5月10日の「2019年3月期 決算短信」で公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,142,039	2,771,365
受取手形及び売掛金	18,080,220	18,873,411
商品及び製品	8,260,486	7,921,102
仕掛品	257,075	381,771
原材料及び貯蔵品	726,666	827,736
その他	2,064,642	1,912,335
貸倒引当金	△6,663	△1,078
流動資産合計	32,524,466	32,686,645
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,639,797	10,705,636
土地	8,162,196	8,288,063
その他(純額)	1,936,627	1,911,109
有形固定資産合計	20,738,621	20,904,809
無形固定資産		
のれん	1,189,682	1,804,766
その他	720,524	681,473
無形固定資産合計	1,910,206	2,486,239
投資その他の資産		
その他	4,429,493	4,740,358
貸倒引当金	△238,534	△237,982
投資その他の資産合計	4,190,959	4,502,376
固定資産合計	26,839,787	27,893,425
資産合計	59,364,254	60,580,071

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,074,302	18,136,190
短期借入金	3,524,788	10,925,274
未払法人税等	94,582	308,138
賞与引当金	493,127	602,593
工事損失引当金	9,341	27,321
完成工事補償引当金	28,090	27,498
ポイント引当金	—	11,800
その他	3,737,587	4,300,791
流動負債合計	29,961,818	34,339,608
固定負債		
長期借入金	10,565,074	7,037,450
退職給付に係る負債	2,133,645	2,168,531
資産除去債務	1,365,361	1,402,404
その他	660,506	713,782
固定負債合計	14,724,587	11,322,168
負債合計	44,686,405	45,661,776
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	951,404	976,396
資本剰余金	556,204	581,196
利益剰余金	12,782,638	13,008,622
自己株式	△123	△242
株主資本合計	14,290,123	14,565,973
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	376,386	359,417
繰延ヘッジ損益	△445	△18,102
退職給付に係る調整累計額	11,783	11,004
その他の包括利益累計額合計	387,724	352,320
純資産合計	14,677,848	14,918,294
負債純資産合計	59,364,254	60,580,071



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	49,138,113	58,846,662
売上原価	39,191,467	47,879,630
売上総利益	9,946,645	10,967,031
販売費及び一般管理費	9,037,496	10,032,209
営業利益	909,148	934,822
営業外収益		
受取利息	4,870	2,385
受取配当金	29,298	29,704
受取補償金	31,113	35,033
その他	79,132	84,644
営業外収益合計	144,415	151,768
営業外費用		
支払利息	49,556	41,503
その他	24,405	31,552
営業外費用合計	73,961	73,056
経常利益	979,602	1,013,534
特別利益		
固定資産売却益	5,524	1
特別利益合計	5,524	1
特別損失		
固定資産除売却損	48,986	31,832
賃貸借契約解約損	—	8,204
特別損失合計	48,986	40,036
税金等調整前四半期純利益	936,141	973,498
法人税、住民税及び事業税	187,599	505,115
法人税等調整額	87,095	△83,027
法人税等合計	274,694	422,087
四半期純利益	661,447	551,411
親会社株主に帰属する四半期純利益	661,447	551,411

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	661,447	551,411
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△21,890	△16,968
繰延ヘッジ損益	4,854	△17,656
退職給付に係る調整額	△248	△778
その他の包括利益合計	△17,284	△35,404
四半期包括利益	644,162	516,007
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	644,162	516,007

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	936,141	973,498
減価償却費	645,026	708,616
のれん償却額	90,326	147,927
その他の償却額	11,922	33,789
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,946	△7,216
賞与引当金の増減額(△は減少)	4,401	105,158
工事損失引当金の増減額(△は減少)	4,928	17,980
完成工事補償引当金の増減額(△は減少)	△618	△591
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△701	20,302
受取利息及び受取配当金	△34,168	△32,089
支払利息	49,556	41,503
為替差損益(△は益)	△533	25
固定資産除売却損益(△は益)	43,461	31,830
売上債権の増減額(△は増加)	△940,722	△691,884
たな卸資産の増減額(△は増加)	△137,519	225,805
その他の資産の増減額(△は増加)	△64,860	103,411
仕入債務の増減額(△は減少)	△577,099	△4,124,109
未払消費税等の増減額(△は減少)	△147,469	402,606
その他の負債の増減額(△は減少)	431,368	△34,900
小計	315,385	△2,078,333
利息及び配当金の受取額	34,170	32,092
利息の支払額	△49,144	△41,661
法人税等の支払額	△827,649	△161,953
営業活動によるキャッシュ・フロー	△527,238	△2,249,855
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額(△は増加)	—	10,279
固定資産の取得による支出	△823,350	△589,120
固定資産の売却による収入	61,714	4,279
固定資産の除却による支出	—	△667
投資有価証券の取得による支出	△6,653	△7,231
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△929,911
長期貸付けによる支出	—	△23,000
長期貸付金の回収による収入	1,663	2,088
長期前払費用の取得による支出	—	△37,248
その他	75,073	12,689
投資活動によるキャッシュ・フロー	△691,552	△1,557,841
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△200,000	4,800,000
長期借入金の返済による支出	△1,131,804	△1,007,063
リース債務の返済による支出	△48,391	△37,357
自己株式の取得による支出	—	△119
配当金の支払額	△315,566	△325,258
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,695,761	3,430,201
現金及び現金同等物に係る換算差額	471	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,914,081	△377,496
現金及び現金同等物の期首残高	5,108,337	3,111,334
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,194,255	2,733,838

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年7月19日開催の取締役会において、譲渡制限付株式報酬制度として新株式の発行を行うことについて決議し、2019年8月9日に20,897株の払込が完了いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金が24,992千円、資本準備金が24,992千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が976,396千円、資本剰余金が581,196千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	小売事業	建設事業	貿易事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	31,694,201	15,215,810	2,098,996	49,009,008	129,104	49,138,113
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,650	8,301	24,966	34,918	—	34,918
計	31,695,852	15,224,111	2,123,962	49,043,926	129,104	49,173,031
セグメント利益	653,786	489,330	263,973	1,407,089	39,411	1,446,501

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,407,089
「その他」の区分の利益	39,411
セグメント間取引消去	5,145
全社費用(注)	△542,497
四半期連結損益計算書の営業利益	909,148

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費となっております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	小売事業	建設事業	貿易事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	39,438,043	16,445,352	2,821,220	58,704,616	142,045	58,846,662
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,830	505	12,953	15,288	—	15,288
計	39,439,873	16,445,858	2,834,173	58,719,905	142,045	58,861,950
セグメント利益	877,446	60,344	527,128	1,464,919	66,935	1,531,855

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメント毎の資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

当第2四半期連結会計期間において、株式会社サイエンスホームの株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「小売事業」のセグメント資産が700,040千円増加しております。

## 3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,464,919
「その他」の区分の利益	66,935
セグメント間取引消去	5,849
全社費用(注)	△602,882
四半期連結損益計算書の営業利益	934,822

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費となっております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「小売事業」において、2019年8月27日付で株式会社サイエンスホームの全株式を取得したことから、のれんの金額において重要な変動が生じております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては700,040千円となります。

## 5. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第2四半期連結累計期間より、経営管理体制の見直しを行い、既存事業の一部の報告セグメントを「建設事業」から「小売事業」へ変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントに基づき作成したものを記載しております。